令和元年度　利用学習事業

実施報告

ちていのもり
地底の森ミュージアム

仙台市 じょうもんのもりひろば
縄文の森広場

目　次

Ⅰ　利用学習の基本的な考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１　文化財普及活動と利用学習

２　学校教育における位置づけ

３　実施までの流れ

Ⅱ　利用学習事業参加校及び体験内容一覧　・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ　利用学習報告書（実績まとめ）　・・・・・・・・・・・・ 3～8

Ⅳ　参加校の学習まとめ①　・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～13

参加校の学習まとめ②　・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～15

Ⅰ　利用学習事業の基本的な考え方

１　文化財普及活動と利用学習

仙台市ではこれまで、文化財の保護・活用への理解と必要性について市民の理解と認識を深めるために、「文化財せんだい」等の各種広報誌の発行や埋蔵文化財の発掘調査時における遺跡見学会の実施など、数々の普及啓発活動を行ってきた。その成果もあり、一般に文化財に対する市民の関心は高く、また生涯学習への意欲も強い。

仙台市は平成４年に「仙台市旧石器の森・原始古代村構想」を策定した。昭和５５年に保存が決定された縄文時代の遺跡である山田上ノ台遺跡と、旧石器時代の遺跡である富沢遺跡、多賀城以前の役所跡である郡山遺跡などを連携させながら、歴史教育の場としてそれぞれを整備していこうとする構想である。この構想を具現化する施設として、平成８年１１月、遺跡の緊急保存を必要とした富沢遺跡に地底の森ミュージアムが開館した。以来、学校教育との連携を１つの大きな柱に掲げ、館の予算で送迎バスを借り上げ、見学や体験を中心とした学習活動を展開する利用学習事業を行ってきた。平成１８年７月には分館として山田上ノ台遺跡に仙台市縄文の森広場が開館し、両施設を活用した利用学習事業が実施できることとなった。

また、平成１４年度の仙台都市圏「どこでもパスポート」にはじまる、県内各圏域でのジュニアパスポート等を利用した見学も活発である。平成１８年度からは「どこでもパスポート」の提示により平日も無料で入館できるようになったことで、学校が終わってから来館する児童・生徒の姿も見られる。利用学習事業参加の児童・生徒が家族や友人とともに再来館することも多く、本事業は学校教育との連携を促進するだけでなく、文化財に親しみ、愛護する精神を育成するきっかけとしても効果的である。

２　学校教育における位置づけ

学校教育の中での博物館利用については、平成２３年度から全面実施された新学習指導要領の中でその必要性が述べられている。小学校学習指導要領・社会科、指導計画の作成と配慮事項では「各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。」「博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすること。」と記載されている。

３　実施までの流れ

事業の参加校は、前年度末に各学校宛に実施要項を送付し、次年度分を募集して決定している。児童・生徒の活動に使用する教室は、地底の森ミュージアムでは最大４０人程度が活動できる研修室のみである。そのため、展示見学と体験（主に石器づくりと使用体験）とを交互に行うなど学校規模にあわせた対応を行っている。縄文の森広場では、最大１００人程度の体験活動ができることから、展示見学に加え「勾玉づくり」「土器づくり」「土偶づくり」「石器づくり」「編布づくり」などの体験メニューを学習に取り入れている。参加決定後は、来館前に当日の活動内容や体験等について、両館それぞれに事前に打ち合わせをして利用学習計画書を提出してもらい、実施後は、事後指導の機会を利用して児童生徒の感想などをまとめていただき、利用学習報告書と一緒に提出（感想まとめ等は任意）してもらっている。

令和元年度　利用学習事業　参加校及び体験内容一覧

No.	利用日		学　校　名	参加学年	参加人数		体験活動										施設利用
							地底の森			縄文の森（土ミニ250g/土小500g/土大1kg）							
					児童	引率	石器	石器使	森探検	勾玉	石アク	土ミニ	土小	土大	編布	火起	
1	4月16日	金	折立小学校	6	51	5		51		51							両館
2	4月16日	木	秋保小学校	6	5	1	＊	＊	＊						5	5	縄文の森
3	4月17日	木	東長町小学校	6	100	4	＊	＊	＊		100						縄文の森
4	4月19日	金	太白小学校	6	48	2	48			48							両館
5	4月19日	火	四郎丸小学校	6	70	3	70			70							両館
6	4月23日	火	川平小学校	6	77	4	＊	＊	＊	77							縄文の森
7	4月23日	水	八木山南小学校	6	33	3	33						33				両館
8	4月24日	金	立町小学校	6	32	3	32			32							両館
9	4月24日	金	仙台白百合学園小学	6	40	2	＊	＊	＊	40							縄文の森
10	4月26日	水	古城小学校	6	49	3	49						49				両館
11	4月26日	火	芦口小学校	6	50	3	50						50				両館
12	5月8日	水	西多賀小学校	6	97	3	＊	＊	＊				97				縄文の森
13	5月9日	金	岡田小学校	6	33	1	＊	＊	＊	33							縄文の森
14	5月10日	火	旭丘小学校	6	72	4	72			72							両館
15	5月10日	水	東宮城野小学校	6	32	2	32					32					両館
16	5月14日	火	東仙台小学校	6	72	4	72				72						両館
17	5月14日	火	向山小学校	6	40	2	40			40							両館
18	5月15日	木	八本松小学校	6	53	4	※見学のみ						53				両館
19	5月21日	金	蒲町小学校	6	97	3	97				97						両館
20	5月29日	火	根白石小学校	6	14	2	14					14					両館
21	5月31日	木	虹の丘小学校	6	56	3	56							56			両館
22	6月4日	火	錦ケ丘小学校	6	203	7		203		203							両館
23	6月6日	木	川前小学校	6	85	5	85			85							両館
24	6月12日	金	市名坂小学校	6	89	5		89		89							両館
25	6月20日	金	連坊小路小学校	6	117	4		117			117						両館
26	6月25日	金	中田小学校	6	104	5	104			104							両館
27	6月28日	火	福室小学校	6	98	6		98			98						両館
28	7月9日	金	住吉台小学校	6	52	3	＊	＊	＊	52							縄文の森
			合　計		1869	96	854	558	0	996	484	46	282	56	5	5	

Ⅲ　令和元年度　地底の森ミュージアム・縄文の森広場　利用学習報告書（実績まとめ）

☞参加校（全２８校：小学校２８校、中学校０校）

１．利用学習に参加して、施設を活用した学習活動が期待通りできましたか。

Ａ：できた	Ｂ：できたが、期待通りではなかった	Ｃ：できなかった
２７	１	０

２．上記１の答えを選んだ理由を、ご記入ください。（○肯定的な意見　△今後の検討課題　■否定的な意見）

○４月の中旬で、時期も学習とちょうど重なったうえ、体験もしっかりできたので良かった。一つ一つ、展示物の前で丁寧な説明をしていただき、学習したことが深まった。

○見学・体験を通して、その時代の生活の様子等をしっかり学ぶことができたから。

○復元住居を見たり、館の職員の方の話を聞いたり、体験学習をしたりすることを通して、縄文時代の自然環境や人々の生活についての関心が高まったから。

○遺跡を実際に見ながら説明を聞けたことで、旧石器時代や縄文時代の人々のくらしについて、より理解させることができたから。

○授業では、資料集で写真を見るだけだったが、たて穴住居や石器などに触れたり作ったりすることで、子供たちに実感を伴わせることができるから。

○児童が集中して活動に取り組めた。帰校後も、学習内容を話題にしていた。

○打合せを細かに行なっていたため。校外学習のねらいに即した活動を吟味したため。

○体験活動が充実しており、児童は縄文人のくらしや知恵を自分の肌で感じることができた。たんけんノートや学習ノートに問題が掲載されていることにより、パネル展示をじっくり見学して、学んだことを知識として身に付けることができた。

○実際に展示施設を見ることで、教科書でイメージしていたものが具体化しながら確認できた。竪穴住居に入ってみて、広さや使っている様子など、当時の生活を想像できる手立てとなった。

○社会で学習したことが、実際の遺跡を見学することで、理解が深まった。また、体験活動も子供たちにとって、興味関心を引くものだったので、見学後の社会の学習に意欲的になってきた。

○土器作りでは、ボランティアの方々の手伝いももらい、手厚く指導してもらった。また、その日は、縄文時代の生活の様子についても PowerPoint を使って説明してもらい、社会の学習と関連した内容で、子供たちの学びも深まった。野焼き体験の日は、館内見学、施設見学も行なうことができ、それぞれの場所で、館職員の先生方に丁寧に教えてもらった。

○児童が意欲的に見学、体験でき、その後の歴史学習にも感心をもって取り組んでいる。

○職員の方々に丁寧に説明していただいたことで、単に見学しただけでは得ることのできない学びが得られた。また、実物を見ながら説明を聞くことで理解も深まり、児童にとっては学校だけでは経験できない学習活動ができたため。

○体験の際には、児童一人一人に丁寧に対応してもらった。

○体験活動を通して、当時の人の苦労などを体感することができたから。また、実際に遺跡を見たり触れたりしたことで、初めての歴史学習に対してより興味関心を喚起し、縄文・弥生時代だけでなく、それ以降の学習にも意欲的に取り組んでいる児童が多く見られるから。

○学校での学習内容と丁度かみ合っていて、深い理解につながった。また、学芸員の先生の話もとて

も分かりやすく、質問にも丁寧に答えてもらった。

○教科書や資料集だけではイメージが難しい石器時代や縄文時代の様子について、見学したり体験したりすることができ、理解が深まった。また、石のアクセサリー作りや石器作りを通して、歴史学習への意欲が高まったため。

○本物の遺物を見たり、縄文土器や石器を実際に作ったりと、学校では体験しにくい活動、指導しにくい活動を実際に体験し、学ぶことができた。

△昨年度の反省を踏まえ、今年度の体験は軽めなものを計画したが、やっぱり時間が足りなくなり、せっかくの展示をゆっくり見る時間がなかったからもったいないように感じた。加えて、ワークシートも利用したため、自分で見学しながら興味のあることについてじっくり調べる時間なく残念だった。

○発掘された様々な土器の形状や用途、材料について考え、自分の考えを持つことができた。農耕が始まる以前の人類の食料について、資料から考えることができた。

○竪穴住居や土器など、実際に目で見て活動することで、より具体的にその時代の生活や工夫を想像することができた。学習（見学）ノートも、見るポイント等がよく書かれており、子供たちの理解を深める手助けになっていた。

○実際にその時代の物を見たり触れたり、さらに石器作りや勾玉作りなどの体験活動を通すことによって、歴史学習への興味関心が深まった。

○体験活動（アクセサリー作り、石器使用体験）を通して、縄文時代や石器時代の暮らしを身近に感じることができた。また、施設の見学で知識・教養を広げることができたと感じた。

○普段の授業ではなかなか深くまで学ぶことのできない縄文時代・石器時代の学習内容について、視覚的な教材や体験活動を通して理解を深めることができた。施設の方々の児童の目線に立った説明が分かりやすく、関心を高めながら最後まで楽しく活動することができた。

３．担当として本事業に今後も参加したいと思われますか？

Ａ：思う	Ｂ：分からない	Ｃ：思わない
２６	２	０

４．上記３の答えを選んだ理由を、ご記入ください。（○肯定的な意見　△今後の検討課題　■否定的な意見）

○身近な施設で体験学習ができることは、子供たちの学習を深めることになると感じるから。

○見学・体験を通すことによって、児童が興味を持ち、知識を深めることができるから。

○担当の方の話も分かりやすく、縄文時代についての理解が深まったから。また、体験学習が良かったから。

○専門的な知識のある職員の方々の説明と体験学習のおかげで、学校だけの学習よりも理解を促すことができるから。

○石器作りや勾玉作りなど、学校の授業では体験できないことを体験でき、学校の授業に大いに役立ったから。

○児童の興味関心の持てる内容だった。

△社会科で３時間、図工で３時間の時数をあてたが、内容としては、社会科では配当時間が本来それほどない単元であり、図工としても評価しがたいところがある。

○他の施設と比べても体験活動が大変に充実している。活動後、児童一人一人に制作した物が残るの

でよい思い出になる。２つの施設を訪れることにより、教室の授業だけでは得られない学びが多くあると感じた。

○職員の方が、分かりやすく丁寧に説明してくれるので、子供たちもよく理解することができる。歴史の学習の導入時として、体験型学習ができるのでよい。

○子供たちの興味関心を高めるとともに、理解が深まる事業のため、来年度も参加させたい。

○学校では体験できない活動を行うことができ、児童からも大変充実したという感想がたくさん聞くことができた。

○学習効果が高いので、引き続きお願いしたいと思っている。しかし、学習内容が増加していることにより、うかがえなくなってしまうことが心配だ。

○単なる見学にとどまらず、石器作りや勾玉作りなどの体験活動を通して、実体験を踏まえた学習活動ができた。また、自分たちの住んでいる仙台市の中に、世界的にも貴重な旧石器時代や縄文時代の遺跡があり、先人達も工夫しながら生活していたことが実感できたため。

○学校からの移動費の負担が例年少ないため、今後も事業に参加したいと思った。なお、今年度は移動費用の負担がなかったので、よかった。

○児童が意欲的に活動に取り組む中で、より興味深く歴史に触れることができたから。利用学習を通して、児童の学習活動への意欲が高まっていることを肌で感じることができたから。

○来年度以降も同様の内容で行なわれるのであれば、体験的な活動がとても効果的で、深い学びが保証される場になっていたと思う。また、交通費等の負担も軽減されており、利用しやすい。

○身近な地域にある遺跡に対して興味を持つきっかけとなり、今後の歴史学習への意欲にもつながっていると実感した。バス代を補助してもらえることも大変ありがたい。

○歴史学習に対する興味関心を喚起する上で、よい企画、よい学習の場である。また、本校は学校規模の関係で、民間の貸し切りバスを使用するとなると、割高にもなり、バス代の補助は誠にありがたい。

△学校ではなかなか資料が足りない時代の学習だが、今年度、文化財課の出前授業で、実際に石器や土器に触れることができた。授業時数が足りない現在の状況を考えると、出前授業での学習もありかなと思う。

○縄文のムラの様子を、本物の発掘物や実物大の復元物などから実感することができた。各施設で勾玉作りや石器使用体験を行い、過去の人類の生活を体験することができた。

○学校では体験できないことが体験できるので、子供たちにとってはとても有効な学習だと思う。日程的に難しいかもしれないが、学習を行なっている時期に合わせて、もう少し早く設定したかったと思う。

○実際に見て触れて学ぶ学習は、児童にとって何よりその時代を実感できるから。

○教科書や資料集など紙面のみでの学習とは違い、実物を見たり、実際に触れたりすることはとても大切な活動だと思う。また、地域の施設を積極的に利用したいから。

○当時の時代に実際に生えていた植物に囲まれ、土器等の質感や、昔の様子を肌で感じることができる体験は、とても貴重だと思う。学習ノートに熱心に取り組む姿からも、縄文時代・石器時代の暮らしに興味を持ったように感じた。

５．館職員へのご要望やご意見、今後の利用学習事業に期待することがあればご記入ください。

（○肯定的な意見　△今後の検討課題　■否定的な意見）

○とても丁寧に対応していただき、ありがたかった。（６）

○分かりやすく、興味を持たせるような説明がありがたかった。

○子供たちの目線に立ち、細かく説明してもらい、大変ありがたかった。特に、体験活動（石器作り、勾玉作り）では、大変意欲的に活動していた。子供たちも、大変勉強になったと喜んでいた。今後もよろしくお願いします。

○職員の方々の説明が大変丁寧で、授業では扱わないような細かいところまで指導してもらうことができた。体験活動では、ボランティアの方々を含め、多くの職員の皆様にサポートしてもらい、児童は安心感をもって活動することができた。

○当日はていねいな館内説明に、数多くのボランティアおよびスタッフの方々に体験補助をしてもらい、ありがたかった。

○それぞれ職員の方やボランティアの方々から丁寧に説明してもらったことに感謝している。また、バス代の援助もあるため、保護者への負担もなく見学できることが大変ありがたかった。

○体験活動をしながら、その時代時代に関する興味をそそられる指導をしてもらい、たくさん学習できたことにみんな満足して帰ってきた。作成したものにはみんな愛着を感じ、その後も学校に持ってきてはうれしそうに眺めている児童もいる。非常に貴重で充実した学習をさせてもらい、ありがたい。

○これからも同様のプログラムで継続してもらえればと思っている。

○こちらの不手際で、事前の打ち合わせがぎりぎりになってしまった。それに対し、忙しいにもかかわらず、親切に対応してもらい感謝している。石器作りが終わっていない児童が多かったので、もう少し時間をもらえるとありがたかった。石選びの前に、先にできあがり図を示してもらったほうが、それに近い石を選び、作りやすいのではないかと感じた。最後に実際に石で紙を切って見せてもらい、児童は大喜びだった。

△地底の森で石器体験を行なったが、もうちょっといろんな用途に応じた石器を使うことができたら良かったなと思った。

○計画から実施まで丁寧に支援してもらい、児童の学びの良い機会となり、感謝している。

○各施設で、充実した体験ができた。館内での説明も分かりやすく、児童の学習が深まった。「縄文の森広場探検ノート」の活用も、子供たちの学習意欲が高まった。

６．その他のご意見がございましたらご記入ください。（○肯定的な意見　△今後の検討課題　■否定的な意見）

○バスを出してもらい、大変助かった。

○ぜひ、来年度も利用させてもらいたいと思う。

○バスの手配など、交通のサポートがあるのはとてもありがたい。

○実施時期は、授業進度的にもう少し早い時期（４月下旬）でも良いという感じがした。

○丁寧に対応してもらい、本当にありがたかった。特別な配慮（集団での指示が通らない、じっとして話が聞けない、など）が必要な児童について、ボランティアさんが対応に苦慮している様子を見た。なかなか説明の難しい課題を抱えた児童なので、なんとか理解をしてもらいながら、来年度以降も参加させてもらいたいと思う。

○児童が興味を持てるように、分かりやすく説明してもらいありがたかった。たくさんのボランティ

アの方々にも支援してもらいありがたかった。

△意見ではなく、次への展望であるが、次回は、学校出発を２０～３０分ほど早くし、時間的にも、もっとゆとりを持って学習させたいと感じた。また来年もよろしくお願いします。

７．まとめ

令和元年度の利用学習事業参加申込は市内小学校２８校で、予定通りすべての学校が体験学習を終えることができた。これは昨年度の参加校と同数で、仙台市内小学校のおよそ４分の１の学校が参加したことになる。参加児童数は、昨年度の１，８４５人に対して、今年度は１，８６９人で、２４人の増となっている。

この利用学習事業は、学校教育の中で「地底の森ミュージアム」及び「縄文の森広場」を効果的に活用する授業実践のために、各学校から両館への往復の交通費を補助するものであるが、事業予算の都合上、参加校数によって補助額が変動する。今年度は参加校数が昨年度と同数で、参加校全てに全額を補助することができた。報告書を見ても、この全額補助により両館の利用を前向きに考えており、日程の調整が付けば、今後もぜひ参加したい事業であろう。

今年度の参加校から提出された事後報告書を見てみると、「利用学習に参加して、施設を利用した学習活動が期待通りにできたか」という問いに対して、２７校が「できた」と回答している。その主な理由は、「実際に展示施設を見学することで、教科書でイメージしていたものが具現化された。」「見学や体験を通して、その時代の生活の様子をしっかり学ぶことができた。」「実際の遺跡を見学することで、学習内容の理解が深まった。」といった内容のものがほとんどだった。また、「初めての歴史学習に対してより興味関心を喚起し、縄文・弥生時代だけでなく、それ以降の歴史学習にも意欲的に取り組んでいる児童が多く見られる。」という回答は、主に先史時代を取り扱っている歴史博物館として、その価値が評価されたものであると思う。

また、「本事業に今後も参加したいと思うか」という問いには、２６校が「思う」と回答している。その理由は、交通費の補助が大きいかと思いきや、多くの学校の回答はそうではなかった。「体験的な活動」「見て触れて学ぶ学習」「地域の施設の積極的な活用」など、実体験によって学習意欲と理解が向上することをあげる学校が多かった。それに加えて交通費の補助が、今後も事業に参加する意欲を持続させているところだと思われる。

一方、今後の検討課題もいくつか示されている。その一つは、利用校からの報告書の中でも指摘されていたことだが、「授業時数が足りない現状を考えると、出前授業での学習もありかなと思う。」という意見である。これについては、出前授業による‘体験的な活動が深い学びにつながっていく’という効果はある程度期待できるが、実際の展示施設の見学や資料等の説明による‘直接的な学びを通しての意欲的な学習への取り組み’という点では、歴史博物館を訪れることがやはり必要であると考える。学習単元の限られた時数配分の中で、必要最小限の学習の機会を選ぶか、プラスαの時数配分で直接的な学習の機会を選ぶかは、それぞれの学校がどれだけの学習成果を期待するのかという判断によるところだと思う。しかし、子供たちが歴史学習に興味関心を抱き、様々な体験や学びを通して自身の生活の中に生かし、生涯学習活動へとつなげていくためには、学校教育の授業の中での施設の直接的な活用が大きな礎となることだろう。

二つ目は、この事業が開始されて以来の継続的な課題であるが、参加校の実施日程の割り振りである。ほとんどの学校が利用を希望する日程は、社会科の単元学習（旧石器・縄文時代）にタイムリー（４月～５月）な日程であるが、両施設の受入可能人数の関係から、一日１～２校の実施日程を組まざるを得

ないという現状があり、その改善はなかなか難しい。今後もできるだけ多くの学校の希望に沿った、単元学習時期に近い日程を組み、歴史学習の補助的効果を高めていく予定である。

ただし、両施設の利用によって、子供たちが歴史に興味関心を抱き、将来に向けて新たな活力を生み出す創造の場となっていくのであれば、単元学習に近い時期での実施にはあまりこだわらなくてもよいのかもしれない。本事業に参加した子供たちが、その後の生活の中で再度、楽しみながら旧石器や縄文時代の暮らしや技術を体験することを通して、過去の歴史を踏まえて今を見つめ直すきっかけとして利用してもらうことを学校側に提案していくことも必要である。

終わりに、この利用学習事業の継続的な運営に当たって、今後両施設がさらに幅広く周知され、各小中学校がその価値を認識し、より多くの学校が利用学習に参加してくることを目指して、これまでの成果をさらに積極的に広報していきたいと考えている。

Ｈ小学校　感想

◎実際に縄文土器を作ってみたら難しかったので，縄文人は器用だなと思いました。子どものお墓も作っていたので、優しいなあと思いました。鋭い石で簡単に肉を切っているのを見てびっくりしました。

◎竪穴住居は、すごく丈夫だと思いました。外から見たら狭そうですが、中に入ったらすごく広くてびっくりしました。日当たりがよくなるように南側を入り口にしていて、煙が出やすいように入り口近くにしたり、上の方に空気の通り道も作ったりしていて、縄文人の知恵がすごいと思いました。そして，縄文土器を実際に作って、昔の人は何でも自分の力で作っていてすごいと思いました。

◎校外学習に行って，昔の生活の様子と今との違いが分かりました。土器を作って、土でできた物が、生活に役立ったことがすごいと思いました。これからも、昔の人のことを考えながら生活していきたいです。

◎旧石器時代や縄文時代のことについてたくさんのことが分かってよかったです。竪穴住居や縄文の村を見て、昔の人はみんなで知恵を出し合い、協力していたのだと思いました。昔の人は、土器を一つ作るのに時間がかかるのに、何個も作っていたと考えるとすごいと思いました。貴重な土器作りを体験できてよかったです。

◎教科書に載っていないことがたくさん分かり良かったです。縄文人は、生活・食料・衣類、道具はそろっていますが、それに比べて、旧石器人は、氷河期で寒いなか、狩りをしながらの移動、食料は肉ばかり、道具も少ないと言うことが分かりました。縄文土器作りでは、火焔土器の作り方や構造を知ることができて良かったです、昔の人たちは、自分たちの知恵と努力で過ごしてきたのだと分かりました。ぼくも、このくらいがんばりたいと思います。

歴史新聞

発行日 五月三十日(木)
六年一組 [redacted]

縄文人達のくらし

縄文人達のくらしは、今の私達のくらしとは、まったくちがうものでした。今のような、とても便利な道具はなく、かりや、さいしゅうなどで食べ物をちょうたつしていたので、何日も食べ物が食べられない事もあったそうです。

しかし、道具やかりの方法をくふうしていました。縄文人達がすんでいたたて穴住居には、たくさんのくふうがあります。害虫をつけないように、たて穴住居の中で食べ物をにたり、ふとい木を使うため、なえから村で育てたりしすごい！と思いました。

縄文土器をつくろう。

縄文人達が使っていたつぼのような形の土器を、「縄文土器」といいます。縄文人達は縄文土器を使い、食べ物を保存したり、火を通したりしていました。

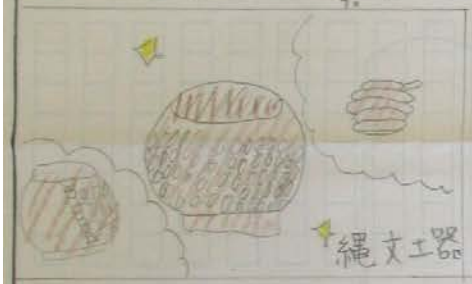
縄文土器は、赤いねんどでつくります。

まず、台をつくり、その上に細長くしたねんどをかさねます。

次に、形をととのえます。このとき、ていねいにやらないと、穴があいたりします。

最後に縄のもようをつけて完成です。

縄文の森広場には、とうじ使われていた、あさきな土器がたくさんありました。



二万年前の根っこ?!

地底の森ミュージアムでは、きちょうな氷河期の木の根っこがきれいなじょうたいで残っていました。案内してくれた山田さんが、

「実は、氷河期の地面は、今の地面より、約五メートルも下だったんです」

と言い、とてもおどろきました。

氷河期の植物

氷河期の日本にも、たくさんの木や植物が生えていました。今よりも寒いので、寒い所に生える種類が多かったようです。樹木の多くは、トミザワトウヒやグイマツなどの針葉樹で、それにシラカンバやいンノキなどの広葉樹もまじっていたようです。

まとめ

旧石器時代や、縄文時代の人々は、今より不便なかんきょうの中で、たくさんのくふうをしながら生きのびていた。

日本にある遺跡には、生活のあとがたくさん残っている。

編集後記

地底の森ミュージアムと縄文の森広場に行ったことで、教科書にはのっていないような歴史の奥深さが分かりました。

旧石器時代、縄文時代にタイムスリップ!!

はにわ新聞

発行日 5月28日(火)
6-1 [redacted]

氷河期の木林 富沢遺跡

地底の森ミュージアムは富沢遺跡といって、約2万年前の森をくつされたままの状態で公開していて、木の根や幹が一面に広がっています。木のまわりからは、松ぼっくりや葉のほかにシカのフンや昆虫の羽などもたくさん見つかっています。森の中には人の生活のあとも残っていました。

遺跡にあったもの

- 木 保存状態がとてもよかったので残っていました。
- 炭 炭化していた木です。
- 石器 石をわってかっていました。
- ししきり ナイフと同じ役割
- シカのフン
- 昆虫
- あな

などなど…

縄文の村がよみがえる 山田上ノ台遺跡

縄文の木林広場は、山田上ノ台遺跡といって、約4千年前の縄文人のくらしのあとが見つかったところです。縄文のムラを復元して、見学や体験活動をしながら、縄文時代のことを楽しく学ぶ場所です。

遺跡にあったもの

- 矢じり
- 木の実をすりつぶすもの
- 穴をあける道具
- 木を切ったり加工するもの

などなど…

旧石器時代と縄文時代のちがい、同じところ

旧石器時代

家がない
村がない
肉系が多い
木が低い
気温が低い
土器はまだない

同じところ

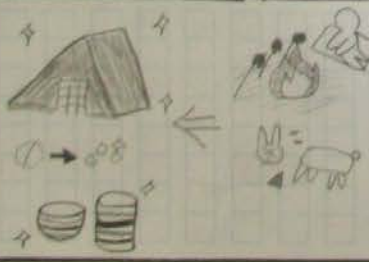
狩りをしていた
道具作りをしていた
火を使っていた
服がある
石器がある

縄文時代

家がある
村がある
木の実や魚をよく食べるようになった
木が高くなった
気温は高い
土器がつくられた

編集後記

旧石器時代と縄文時代にかけて、食べ物や木材を加工する技術が進んだ。家を作るようになり、土器や石器を作ったり、木の実をすりつぶすなどで、人々のくらしが豊かになったことが、旧石器時代と縄文時代を比べて分かった。



時代の思い新聞（シンブン）

令和元年5月17日

[redacted]

旧石器時代の生活と食べ物

旧石器時代の人々は、毎ばん自分たちのねどこや、食事場所をさがさなければいけませんでした。そして、ねる場所などは、小し高くて、近くに池などの水がなければもう一度さがしに出なければいけなかったそうです。

その条件がそろった場所では、狩りをしてとった食材をたき火で焼いて食べていました。また、たき火のまわりで狩りをする道具を直していました。

旧石器時代の人々は、自分たちの力で自分たちが必要な物を時間をかけて生活している、時間を大切にしている人々だと思いました。

よみがえった2万年前の遺跡

2万年前の氷河期の時代針葉樹を主とする湿地林の跡と旧石器人のキャンプ跡が残っている遺跡。この遺跡は何本かの太い木の根が集ていた。その木の根は、表面がつるつるしていて、中の方はふわふわして気持良かった。

この遺跡は、藻をつけて温かいもわとした所で保管している。

縄文時代の食べ物と道具

縄文時代の人々は、村の人と協力して共動で生活していた。食料はシカや木の実、魚、鳥などをとって、家に保管しながら食べていた。しかし、狩りをしてとった動物などで調理する道具があった。それは、縄文土器だ。土器を作るために、あなをほりねん土をかんそうしないように土にうめていた。

調理したり、動物をとる道具は、土器、石皿、すり石、石おの、弓矢など道具は旧石器時代より増えた。

縄文土器の作り方

①ねん土を6等分にして、その1つを土台にする。

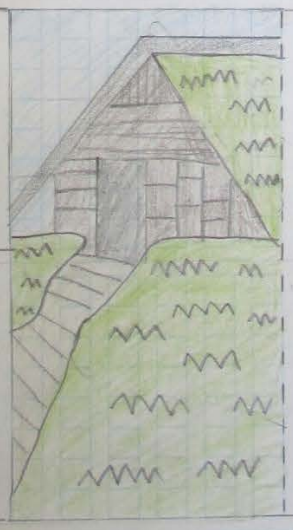
②ねん土を太めに細長くして、輪っかにする。

③一だんずつ重ねていき、空気が入らないようにすき間をなくす。

④なわやぼうでもようをつける。

縄文人の家 たて穴住居

たて穴住居は、水分をきゅうしゅうするくりの木で作られていた。家の入口は、日光がたくさん入るように南側を向いている。家の中は、虫をよせつけないためにけむりのにおいがした。太い木で家をしっかり支えていて、じょうぶだった。家の中は、思ったより広かった。



感想

昔は、今とちがって道具も手作りしたり家を建てる場所もしっかり考えていて、苦労しながらも自分たちが住みやすい楽しい村をつくっていると思った。また、亡くなった人を大切に家の近くの埋設土器にうめているのは、家族の声が聞こえてさみしくないようにだと思った。

二つの時代を調査新聞

令和元年5月17日

[redacted]

昔の人の道具や石器!

番号ごと

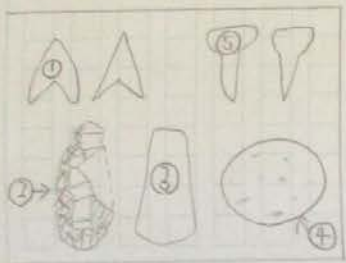
①これは、と言い、

②これは、石器人が

③これは、木を切、たり、加工する時に使う道具です。

④これは、木の実をすりつぶす時に使われる道具です。

⑤これは、穴をあける時に使われる道具です。



かえん土器の作り方

①ねん土を六等分にする。

②土台を親指一つ分の厚さ

③土台の周りに水をぬって、土をのせる。(ねん土どうしをくっつけるため)

④細長くしたねん土に水をにのせて、それを続けていく。

⑤一番上の細長くしたねん土に水をぬり、小さな山をのせる。

⑥道具でおうとうを作る。

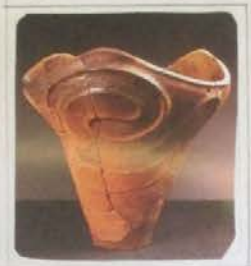
⑦縄などでもようをつける。

(実にふれしめる。)

にする。

細長くしたねん土をつなげる外周(周)をぬり、半分の外側

く。



(左下の絵を見て下さい。)

かりをするための道具です。矢じり

矢の先につける道具です。2万年前に旧

石器人が使った石器です。

旧石器時代と縄文時代の変化

	環境	生活	食料	衣類	道具
旧石器時代	ら前が年現在2以来。	物をが動り。動は生活。格内のた居家。住うもと	なって、でカ、ていて、ソ動。ときく動草の充ていたや。山木どし	物。動皮。かたもの。	石器。ナイフ形石器。
縄文時代	前ノが年上跡。在○○田遺。現4山台は。	穴い住する。に蔵貝し。そ	負なし。物、実実る。動草の充。山木どし	物。動皮。かたもの。	針。フリ。の(縄文)。リお矢鏃。矢もちろ土。。。。。

シカのフンを大調査

50～100個の黒いつぶがあちらこちらから見つかり、形や大きさなどを調べると、シカのフンであることがわかりました。シカの群れが越冬(え。とう)のために、てきていたようです。

留沢で見つかったフンから、シカがハシバミやササを食べてくらしていたということがわかりました。

感想

教科書にのっていないことがたくさんわかり良かったです。縄文人は、生活、食料、衣類、道具はそろっているが、それに比べて、旧石器人は、水河期で寒い、動物もかりなから移動、食料も肉ばっかり、道具も少ないという違いがわかりました。自分でオえん土器をつくり、かえん土器の作り方や縄道も知れて良かったです。昔の人は、自分たちの知恵と努力で過ごしてきた人だとわかりました。僕もそのぐらいオ人はりたい。

令和元年度　利用学習報告「参加校の学習まとめ②」

【児童の感想（土器作り)】

今日，ぼくは縄文の森広場に行って，土器作りをしてきました。
今日の土器のデザインは，何週間も前から考えてきました。皿のような形にするか，コップのような形にするか，どのような模様にするか悩みましたが，ぼくは，コップのような形にしました。
そして今日，縄文の森の広場の方，ボランティアの方，先生から教えてもらいながら作りました。特に印象に残っているのは，教えてもらったことです。ボランティアの方が優しく教えてくださってうまくできました。上手にできて良かったです。
今日，楽しく成功できたので，今度の野焼き体験も楽しく成功させたいです。
★何作る　きんちょうするよ　どきどきだ★　【児童 A】

校外学習に行き，縄文の森広場で，土器作りを体験しました。土器作りでは，粘土を使ってやったのですが，土器の作り方は，私が幼稚園の頃にねん土などで作ったつぼとは全く違って，下からどんどん積み重ねて，すき間をうめて作っていきました。
特に難しかったので，最後の方にする表面や内面を整える作業と模様をつける作業でした。表面と内面を整える作業は，水の量の調整が難しくて，模様をつける作業は，土器の形がくずれてしまうため，力加減が難しかったです。ボランティアの人たちがコツなどを教えてくれたから，難しかったけれどちゃんとした土器を作ることができました。
７月にある野焼き体験は，土器を焼いたり，縄文の森広場の中を見学したりできるそうなので，今からとても楽しみです。
★土器作り　ねん土をこねて　難しい★　【児童 B】

今日は縄文の森広場に行きました。ねん土を見たときに最初はやわらかいかなと思ったら，意外とかたくて，最初にねん土を切るときは大変でした。私が作ったのは，自分の理想とはちがいましたが，縄文土器らしい土器が作れて，良かったです。私がつけた文様は，うずまきの形にしたり，穴を開けたりしました。その中で私が特に大変だったのは，うずまきの文様と縄の文様です。うずまきの文様は，くしでなぞるのが意外にむずかしかったです。縄の文様は，コロコロするのがむずかしく，まっすぐにできなくて，何度もやり直しました。
その縄文土器の一番の特ちょう的なところは，上の三角のところです。三角を何個もつけようと思ったのですが，それだとやっぱりふつうぽくてつまらなかったので，三角を二つにして，ちょっと猫の耳のような形にしました。そこが、私が作った縄文土器の一番の特ちょうです。
今日は，ふつうではできない体験ができて良かったと思います。次の野焼き体験では，初の野焼き体験なので，すごく楽しみです。きちんと見学もして，縄文人が食べていたものや住んでいたところもくわしく調べていきたいです。
★縄文土器　意外に作るの　むずかしい★　【児童 C】

※学年全体で土器作り体験について，作文を書き，全員が俳句を作った。

土器作りに行く前に，図工の時間と関連付けて，土器のデザイン画を描いて，当日を迎える。

【児童の感想（野焼き体験)】

私が縄文の森広場に行って学んだことは，３つあります。
１つ目は，家の周りに作られた物のことです。落とし穴や貯蔵穴，埋設土器などに使われたことなどを学びました。
２つ目は，たて穴住居の形や作り方です。たて穴住居は，教科書では見たことはありますが，中に入って家を見ることは，あまりできないことなので，家の中をしっかり見て，作り方がよく分かりました。家は，復元住居なのに細かい部分まで再現されていて，本当に人が住んでいてもおかしくないくらいでした。
３つ目は，野焼きについてです。野焼きは，土器を動かすことをしました。炭がパチパチ鳴る中で，土器を置くのは，とても大変でした。
縄文人は，様々な工夫をしていたのだと思いました。
★パチパチと　燃える火の中　土器を置く★　【児童 D】

私は，今日，縄文の森へ行って，縄文人の生活についてたくさん学ぶことができました。
野焼き体験では，火の中に土器を入れたり，薪を並べたりしました。土器を中に入れるときは，とても熱かったですが，楽しかったです。薪を並べると，すぐに燃えてしまいました。
また，たて穴住居の中にも入りました。中は暗く，意外と広くて驚きました。縄文人はこんなところに住んでいたんだなと思いました。
また，外には当時の木がたくさん植えられていて，当時の様子が分かりやすかったです。館内には，実物がたくさん置いてあり，当時の暮らしぶりがイメージしやすかったです。縄文の森広場では，縄文に人の暮らしの大変さなどを学ぶことができました。
★縄文人　苦労を重ね　生きていた★　【児童 E】

ぼくは，今日，縄文の森広場に行きました。土器の野焼きはとても大変でした。800℃もある炭の中に近付いて土器を置きました。顔を近付けると，とても熱く，目が開きづらいほどでした。土器を全て置き終えた後に井げた状に木を置きました。完成がとても楽しみです。土器がどうなっているのか楽しみです。
外も見学しました。外には，どんぐりやくり，コナラ，くるみなどたくさんの木がありました。縄文人が住んでいたたて穴住居にも入りました。中はとても暗くて，独特なにおいがしました。中はほとんどが木で結ばれて，できていました。ぼくは，ここで暮らしていた縄文人はすごいなと思いました。
今日，縄文の森広場に行って，改めて縄文人や縄文土器を作ることの大変さが分かりました。今日は，めったにない良い経験ができました。縄文の森広場の方々に感謝したいです。
★縄文の　土器の苦労が　よく分かる★　【児童 F】

※学年全体で野焼き体験について，作文を書き，全員が俳句を作った。

【完成した土器の展示】

縄文土器は、学年の廊下に展示し，友達が作った縄文土器を互いに鑑賞し合う。